

みんなのひろば

視点

「友達や仲間を大切に」。日本のお国柄か、小さいときからいたるところで聞かされてきたこの言葉ですが、それを心の底から実感したのは、いつぐらいのときだったでしょうか。

私は学生時代に団体スポーツに打ち込み、キャプテンでもあったので、仲間の大切さを多少なりとも分かっているつもりでしたが、意外なところで再度その大切さをかみしめる機会がありました。

それは青年海外協力隊としてネパールに派遣される前に受けた事前研修でした。NPO法人自然塾寺子屋(甘楽町)で実施され、座学と地元農家の方々を行う農業実習を通じて、農業や農村での活動方法を学びました。研修初日に強調して言われたのが「これから皆それぞれ違う農家さんのところに通う日々が続くが、毎日各農家さんの元で学んだ内容を全員で共有、振り返ることを通して、この研修を何倍も密度の濃いものにしてほしい」という言葉でした。最初は「いまいピンとこなかったのですが、研修が進むにつれて酪農家さんやナス農家さんに通う仲間と情報交換をすることで、自分が通ったシイタケ農家さんとはまた違った農業のかたちが見えてきて、農業・農村への理解を深める

ことができず。その後の語学研修においても同じことが続きました。ネパール語を一から教えてくれた先生は「今までは外国語を個人個人で学んできたかと思いますが、ネパール語



甘楽町小幡

あさい ひろお
浅井 広大

甘楽町地域おこし協力隊

仲間が新たな地平開く

で文わされる学びを重視していたのです。他の人と会話練習をするより一人で単語を覚えた方が効率的だろうと考えたのですが、毎日1時間集まって会話の練習をしたり、日常会話をネパール語で行うことで語学力が格段に上がってゐるのを実感できました。

通常、個人で学んだ場合には、人によって「覚えやすく・よく使う」単語と「覚えにくく・あまり使わない」単語にはバラつきがあるため、記憶できる単語群が偏ってしまいます。しかし、グループ間でおのおのが覚えていた単語をたくさんアウトプットすることを中心することで、満遍なく必要な単語に触れることができました。「自分はこういう分野の単語が苦手なのだ」と弱点分野を把握することができたのです。これは本当に驚くべきことでした。

スペインの人口わずか18万人の街サン・セバスチャンでは、おのおののレストランがレンビヤノウハウを公開・共有することで、街全体を世界に冠たる美食都市として発展させてきたと聞きます。個人で努力すべきだとされる分野であっても、仲間をつくりだし、手を取り合うことで新たな地平を切り開くことができるのではないのでしょうか。

は仲間とともにグループで学びましょう」と盛んに語りました。授業内での「先生と生徒」間での学びと同時に、授業外での「生徒と生徒」の間

研修で得たこと

【略歴】静岡県生まれ。大学卒業後、2013年1月から2年間、青年海外協力隊員としてネパールで活動。帰国後、甘楽町で国際交流に関わり、16年4月から現職。